

令 和 6 年 度
(令和5年度事業)

伊万里市教育委員会の点検・
評価報告書

令和7年3月
伊万里市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされております。本報告書は、地教行法に基づき、教育委員会が課題や今後の取り組みの方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民の皆さんへの説明責任を果たすため、実施した事務事業のうち、主要な事業について行った点検・評価の結果をまとめたものです。

伊万里市教育委員会では、今回の点検・評価の結果に基づき、評価結果を市民に公表し、次年度以降の事業の立案に反映させることにより、事務改善に役立つよう努めてまいりたいと考えておりますので、市民の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和7年3月31日

伊万里市教育委員会

目 次

I	点検・評価制度の概要	1
1.	趣旨	
2.	点検・評価方法	
II	教育委員会会議の状況等について	2
III	教育委員会の点検・評価施策	
施策 1	学校教育の推進	3
施策 2	生涯学習の推進	10
施策 3	青少年の健全育成の推進	16
施策 4	子育て支援の充実	20
施策 5	文化芸術・スポーツの振興	23
施策 6	人権教育と啓発の推進	30
施策 7	文化財の保護	33

I 点検・評価制度の概要

1. 趣旨

教育委員会の定める基本方針のもと教育委員会が執り行っている教育行政事務について、自ら点検評価を行うことにより、責任体制を明確化し、効果的な教育行政の一層の推進に努めるものです。

また、点検・評価の結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することにより市民に対する説明責任を果たし、次年度以降の事業に反映できるよう改善に努めてまいります。

2. 点検・評価方法

令和5年度の伊万里市の教育に重点的に取り組む施策として掲げた下記の施策について、教育に関し学識経験を有する第三者からのご意見をいただき、点検・評価を実施しました。

施策1 学校教育の推進

施策2 生涯学習の推進

施策3 青少年の健全育成の推進

施策4 子育て支援の充実

施策5 文化芸術・スポーツの振興

施策6 人権教育と啓発の推進

施策7 文化財の保護

ご意見をいただいた方々

氏名	摘要（令和7年3月現在）
森 哲也 様	元市教育長、元小学校長、元中学校長
松永 真治 様	元市教育委員、社会教育委員
池田 豊子 様	元中学校教頭、社会教育委員

II 教育委員会会議の状況等について

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の会議運営の状況

毎月の定例会に加え必要に応じて臨時会を開催しました。会議資料については、教育委員に事前に配付し、議案等についての各委員の理解に努めるとともに、議案等について事務局からの説明に対して質問や提案を受けるなど会議の充実を図りました。

(2) 教育委員会会議の開催回数

- ・定例会 12回（毎月1回）
- ・臨時会 1回（必要に応じて開催）

(3) 定例教育委員会及び臨時教育委員会の内容等

- ・定例教育委員会
- 教育委員会の規則改正等
- 教育委員会事務局職員の人事異動等（3月ほか）
- 教育委員会感謝状贈呈式（4月）
- 教育委員会表彰式（11月）

(4) 市長部局との連携

市長部局が開催する総合教育会議において、教育に関する様々な課題等について率直な意見交換を行い、より一層の意思疎通を図ることができました。

また、教育DXの推進や市民図書館の開館30周年及びGXの拠点化について、学校給食費の支援など教育に関する様々な課題等に対して、常に市長部局と緊密に連携をとりながら、教育行政の充実・発展に向けて取り組むことができました。

- ・第1回総合教育会議 (R5. 8. 23)
- ・第2回総合教育会議 (R6. 2. 22)

III 教育委員会点検・評価施策

施策1 学校教育の推進

1 施策の取組方針

学校教育では、知・徳・体を育む「生きる力」の育成を基軸にして「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を持ち、創造的で個性豊かな児童生徒の育成を目指します。

2 主な取組実績

「教育内容と心の教育の充実」

「確かな学力」を育むために、学力向上対策の推進、教職員の実践的指導力の向上、教育環境の整備に取り組みました。

また、「豊かな心」を育むために、その基盤となる家族やふるさとにおける人間関係を育む道徳性を養うことが大切であり、いじめのない思いやりの心あふれる「愛と信頼に基づく教育・人権文化の創造」に積極的に取り組みました。

さらに、「健やかな体」を養うために、健康教育の充実を図り、望ましい生活習慣や食習慣、運動習慣の形成に取り組みました。

(1) 教育研究事業

児童生徒の基礎学力の定着・向上と教員の指導力の向上を図るため、「伊万里市教育研究会」に、及び人権同和問題の啓発を行うため、「伊万里市人権・同和教育研究協議会」に事業委託を行いました。教科ごとに部会を設置し、各教科・領域の研究や指導方法・指導技術の開発、改善等を行うとともに、人権・同和教育に係る研修会等の実施を行いました。

また、実践的なプログラミング教育のため、南波多郷学館をモデル校として、ロボット・ドローンプログラミング教材を活用した講師派遣による出前授業を行い、プログラミングソフト（スクラッチ）でプログラムしたロボット・ドローンの動きを児童生徒が体験しました。



(2) 教科書購入事業

学習指導要領に基づく小学校の教科書・指導書の採択及び教師用教科書の購入により、学習指導の充実が図られました。

また、デジタル教科書を主要教科で整備し、児童生徒の学習への興味や関心を高め、多くの資料や情報を素早く提供することができるようになったことで、その学力向上を図るとともに、電子黒板を効果的に利活用することができました。



(3) 小学校パソコン管理事業・中学校パソコン管理事業

情報化社会に対応する能力を養うために、タブレットパソコンや電子黒板等の ICT 機器の整備、教職員の校務処理に必要な校務用パソコン、無線 LAN の整備を行いました。

経年劣化した電子黒板等を更新することで、学習指導要領で目標とされる ICT 機器を整備し、児童生徒の学習活動の充実を図るとともに、教職員の業務負担軽減を図ることできました。

(4) 学びの保障対策事業

ICT 支援員を 5 名配置し、ICT 活用支援、ICT 機器のトラブル対応、教職員向けの研修等を行うことにより、授業における 1 人 1 台端末を活用した ICT 環境の活用推進を図ることができました。

また、学びの保障として、オンライン授業の推進ができました。



(5) 学校給食運営委員会支援事業

学校給食運営委員会へ活動費補助として 100,000 円、物価高騰による保護者等の負担を軽減するための事業費補助として 21,083,548 円、学校給食で使用している食材費の高騰による保護者等の負担を軽減するための事業費補助として 8,153,600 円を交付しました。

令和 5 年度は、運営委員会が 3 回開催され、食材費の高騰に伴いこれまでどおりの給食の質の確保が困難であることから、給食費の改定について審議し、令和 6 年度からの改定が決定されました。

〔給食費改定〕 小学校 4,500 円 ⇒ 5,000 円 中学校 5,300 円 ⇒ 5,900 円



▲学校給食運営委員会



▲学校給食の一例

(6) 学校給食センター改修事業

給食センターの建設から 17 年が経過し、設備・機器の耐用年数はすでに超過しており部分的な修繕・改修では施設の満足な機能を保つことが難しいことから、令和 5 年度から令和 7 年度までの夏休み期間において老朽化した施設・設備等の更新を行います。

また、令和 5 年度から令和 19 年度までの期間、給食センター本体施設、調理設備等の維持管理業務も併せて行います。

令和 5 年度は、夏休み期間に洗浄室等の設備や機器の入替を行うとともに、アレルギー食調理室を新設しました。

(7) 多子世帯給食費助成事業

子育て世帯の経済的負担を軽減するため、平成 27 年度より小学 1 年生から満 18 歳に達する学年までに 4 人以上の兄弟姉妹がいる多子世帯の保護者に対して、小中学校に通う 4 人目以降の給食費全額を補助しました。令和 5 年度は、79 世帯 91 人に対して補助を行い、多くの多子世帯の負担軽減を図ることができました。

【年度別支給者数】

年 度	対象者数	支給者数	支給率
令和元年度	93 人	77 人	82.8%
令和 2 年度	102 人	91 人	89.2%
令和 3 年度	104 人	94 人	90.4%
令和 4 年度	96 人	88 人	91.7%
令和 5 年度	94 人	91 人	96.8%

(8) いじめ・教育相談事業

平成 27 年 3 月の伊万里市いじめの防止等に関する条例制定に伴い、いじめ防止対策を実効的に行うための専門機関として、市に伊万里市いじめ問題対策委員会を、全学校にいじめ対策委員会を設置しています。

教育相談の専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラー4名を拠点校に配置し、全小学校で巡回相談を行っており、不登校やいじめなど子どもや保護者が抱える悩みについての相談や診断等の適切なカウンセリングを行いました。

令和 5 年度は 1 日 4~8 時間、1 か月に 1~3 日程度実施しました。

また、必要に応じ、いじめ防止等緊急スクールカウンセラーを派遣する等の支援を行いました。

カウンセラーの助言を受けたことで学校に登校できるようになったなど、児童や保護者などの抱える問題を改善することができました。

- ・拠点校：伊万里小学校、大坪小学校、二里小学校、南波多郷学館
- ・相談人数：延べ 694 人

また、些細なことでも早い段階から対応を行い、いじめに対して適切な指導をしたことで、解消に向かった事例もありました。

市いじめ問題対策委員会では、実際にあつたいじめの事例を共有するなど、児童生徒が安心して生活し、健やかに成長することができる環境づくりに努めるとともに、諮問事案について審議を行いました。

【スクールカウンセラーアンケート結果】

年 度	相談件数
令和元年度	459 件
令和 2 年度	458 件
令和 3 年度	408 件
令和 4 年度	461 件
令和 5 年度	458 件

「学校規模適正化と施設整備」

少子化に伴う小規模学校の増加など社会的背景は変化しており、義務教育学校などの新しい学校づくりについて関係者との協議を行うとともに、校舎の老朽化に伴う校舎改築などの今日的課題に対応し、本市の児童生徒にとっての良好な学校教育の環境づくりを図りました。

（1）小学校管理事業・中学校管理事業

市立学校の教材備品、図書備品等の購入・充実により学習環境の維持に努めるとともに、新たに高速カラー複合機を導入したこと、児童生徒や保護者等に提供する資料の分かりやすさの向上や印刷時間の短縮等による教職員の業務負担の軽減につながりました。

また、各学校施設の適正な維持・管理をはじめ、雨漏りの解消のための校舎屋根の防水工事や校舎内のトイレの洋式化工事を行い、児童生徒の安心・安全の確保、学校施設環境の改善に努めることができました。

（2）小学校施設環境改善事業・中学校施設環境改善事業

昨今の猛暑の影響により夏場の教室は過酷な環境にあることから、市立学校の特別教室（理科室、音楽室、家庭科室、被服室、美術室、多目的室）にエアコンを設置するため、令和6年度の設置に向けて実施設計を行いました。

（3）東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備事業

老朽化した東山代小学校、東山代児童クラブ及び東山代コミュニティセンターの3施設を複合施設として整備するため、令和4年度の実施設計を基に、令和7年度の供用開始に向けて施設の建設工事に着手しました。

(全体進捗率)

工事 年度割	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	28.1%	66.2%	5.7%

（4）東陵中校区小中一貫校等整備事業

大川小学校、松浦小学校の校舎老朽化及び児童数の減少に伴い、両小学校を東陵中学校と統合し、令和7年度から新たに義務教育学校として開校するため、東陵中学校の校舎改修に着手しました。

(全体進捗率)

工事	令和5年度	令和6年度
年度割	31.8%	68.2%

(5) 中学校建設事業

伊万里中学校の外構・屋外運動場の整備や剣道場の建設、柔道場の床改修工事を行い、令和元年度から取り組んでいた伊万里中学校のすべての工事が完了し、生徒に快適な学習環境を提供することができました。



▲完成した伊万里中学校

《工事概要》

所 在 地	伊万里市立花町4063番地1
	敷地面積 30,527m ²
校 舎	鉄筋コンクリート造4階
	延床面積 6,797m ²
	普通教室18室、特別支援教室4室
	理科室3室、家庭科室、美術室、技術室
	音楽室、図書室、生徒会室、保健室
	教育相談室3室、多目的室3室、他
剣道場 棟	鉄骨造1階 332m ²
部 室 棟	鉄骨造1階 88m ²
屋 外 トイ レ	鉄骨造1階 24m ²
体 育 館	床改修 905m ²
柔 道 場	床改修 157m ²
運 動 場	有効面積 11,700m ²

《事業経過》

平成 29年	5月～11月	旧校舎耐力度調査
	8月～平成30年2月	基本設計業務委託
平成 30年	8月～平成31年3月	実施設計業務委託
	10月～12月	地質調査業務委託
令 和 元 年	9月～令和2年12月	南校舎建設工事
令 和 3 年	1月～3月	旧3棟舎解体工事
	4月～令和4年5月	北校舎建設工事
令 和 4 年	7月～10月	屋内運動場改修
	7月～11月	旧1,2棟舎解体工事
令 和 5 年	6月～令和6年3月	剣道場建設工事
		部室棟建設工事
		外構工事
総事業費		2,760百万円

3 第三者からのご意見

- ① いじめのない思いやりの心あふれる町や学校をつくるためには「愛と信頼に基づく教育・人権文化の創造」が大切です。積極的に取り組まれていることに感謝します。
- ② 電子黒板を効果的に利活用するためにはデジタル教科書は不可欠です。主要教科で整備できたことは大きな前進です。
- ③ I C T 機器の整備は児童生徒の学習活動の充実、教職員の業務負担軽減のために重要です。今後とも、計画的に整備をお願いします。
- ④ I C T 環境の活用推進には教職員の資質向上が必要です。教職員の研修をより充実させてください。そして、I C T 支援員が現場への支援を十分にできるように配置人数の増加ができればと考えます。
- ⑤ 学校給食センターの改修事業が計画的に実施されていることを評価します。アレルギー食調理室の新設は大きな前進です。
- ⑥ いじめ・教育相談事業は、児童生徒が安心して生活し、健やかに成長することができる環境づくりのために重要な取り組みです。今後も、必要な時にはすぐスクールカウンセラーを派遣できる体制を整えてください。
- ⑦ 高速カラー複合機の導入、トイレの洋式化、(特別教室への)エアコン設置への準備、施設の適正な維持・管理などにご尽力いただき感謝します。
- ⑧ 伊万里中学校の校舎改築、東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設の建設工事着手、東陵中学校区小中一貫校への校舎改修着手等、施設整備事業が着々と計画的に進められていることに敬意を表します。
- ⑨ タブレットを用いた教育が定着してきたように感じます。
あくまでこの手法はサブ的に働いてこそ本来の教育が生きて来るようになつていけば良いと思われます。
先生方も多岐にわたるご指導は大変でしょうが、良く実践されているように感じています。
- ⑩ 5年にわたる伊万里中学校の計画的な工事が完了し、快適な学習環境の場ができたことは、今後の教育実践の質の向上につながると思います。
- ⑪ 高速カラー複合機の導入は、学習等の資料のわかりやすさの向上や教職員の業務負担の軽減につながったことは評価できます。
- ⑫ 4名のカウンセラー相談件数は、令和5年度は458件ですが、今後も相談は増えると思います。学校、地域連携の中でカウンセラーの先生方の活躍を期待します。

III 教育委員会点検・評価施策

施策2 生涯学習の推進

1 施策の取組方針

市民が、生涯にわたっていつでも、自由に学習することができ、さらに学習成果をいかすことのできる「生涯学習社会」の実現を目指し、中央公民館、コミュニティセンター及び市民図書館において、多様な学習ニーズに応じた学習機会の充実や情報の提供に努めます。

2 主な取組実績

中央公民館（生涯学習センター）及びコミュニティセンターにおいては、市民の学習ニーズに対応した学習機会の充実や情報提供をはじめ、「伊万里学」の学習活動を通じた郷土意識の醸成や地域づくりを担う人材の育成に取り組むとともに、その学びの場である「伊万里塾」の受講など、子どもから高齢者までの市民が主体的に取り組む学習活動を推進しました。

市民図書館においては、市民の知的活力を高めて豊かな心を醸成するために、生涯学習の拠点として資料の整備やレファレンスの充実を図り、あらゆる世代の成長を支えるとともに、地域や個人の課題解決を支援するためのサービスに努めます。また、「日本一のうちどく推進のまち・いまり」宣言を浸透させていくため、「第四次子どもの読書活動推進計画」に基づき、学校や家庭、地域と連携して「うちどく（家読）」を推進しました。

（1）地域学校協働活動の推進

地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに「学校を核とした地域づくり」を目指し、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う「地域学校協働活動」を円滑に進めるため、「地域学校協働活動推進員」を全小学校区に配置しました。

○地域学校協働活動推進員

14名（小学校毎に1名）

○地域学校協働活動推進員協議会

R5.10.5、R6.2.26開催

（取組内容）

- ・大坪小学校：朝の読み語り活動

- ・大川内小学校：田んぼの学校
- ・南波多郷学館：南波多子ども教室（昔遊び、手話、書道、スポーツ）、川柳教室、総合学習補助、ふるさと探訪、南パタピカリン大作戦（清掃活動）、登下校の見守り・交通教室、大野岳シバハギ植樹、話し方大会練習
- ・大川小学校：大川町駅舎及び周辺の清掃活動
- ・松浦小学校：クリーン作戦活動、総合学習補助、昔遊び学習
- ・山代東小学校：職業講話補助、花いっぱい運動、通学路除草作業、地域伝統芸能の講話補助、親子木工教室、古里再発見
- ・山代西小学校：日本の古い楽器（三味線）を学ぼう体験

（2）資料の収集と保存・提供事業

令和5年度における市民図書館の利用状況は、個人登録者数47,383人、団体登録1,365団体、利用人数68,227人、貸出点数329,387点となり、新型コロナウィルス感染症が5類に移行されてから、少しずつ来館する方が増えてきました。しかし、空調設備の更新工事により、特別整理休館日として21日間休館したため、利用人数や貸出点数は前年度より減少しています。

一方、調査相談（レファレンス）は7,784件、予約受付件数は13,280件と、それぞれ前年度に比べてやや増加しており、読書に対する要求の高まりを見せてています。加えて、インターネットによる予約は年間10,823件の申込があり、予約全体の81.5%を占めるなど、新たな利用の形につながりました。



▲図書館で借りられた本の費用対効果を検証

(3) 全域サービスの充実

図書館は本館だけでなく、2台の自動車図書館「ぶっくん」が75ステーションを巡回し、遠隔地に住む市民や、一人で図書館に来られない子どもや年長者に対して、本の貸出を行っています。特に、子どもへのサービスは長年続けており、幼稚園、保育園、認定こども園で出前おはなし会を23か所、355回実施しました。市民にも親しまれる存在であり、貸出点数は87,332点と図書館全体の26.5%を占めています。

(4) 市民との協働事業の推進

令和5年7月に開館28周年を迎えて、市民と一緒に誕生日を祝う「図書館☆（ほし）まつり」をコロナ禍前の手法で開催しました。施設利用については、新型コロナウイルスが5類移行となってから、徐々に来館者数が増え、展示コーナー等の利用日数はのべ251日間、図書館が主催した行事の参加者数は2,141人、市民が主体となって行った会議や研修会などの参加者数は4,887人と多く利用されました。

また、館内外の清掃や、寄附を行ったりするなど、市民が積極的に図書館を支援しています。さらに、官民協働の「伊万里ミントの会」による「森羅万象講演会」や「イマリペディアン養成講座」は、市民が学ぶ場を市民が設定するという自主的な活動により、市民のさらなる成長を支えました。

(5) 図書館の改修事業

開館28周年を迎えた図書館では、施設の老朽化に伴い、年次計画に基づき施設や設備の改修を行いました。

令和5年度は、建物内に設置している空調設備の更新工事、ホールの移動観覧席の機材更新及び非常時でも緊急放送が使用できる放送設備の更新を行い、設備の長寿命化を図るとともに、市民が安心して快適に利用できるようになりました。

(6) 「伊万里市子どもの読書活動推進計画」の実践

令和3年度に策定した第四次計画をもとに、市内小学校、中学校、義務教育学校、保育園、幼稚園、コミュニティセンターなどで、次の4つの基本方針を掲げ、子どもの読書活動を推進しました。

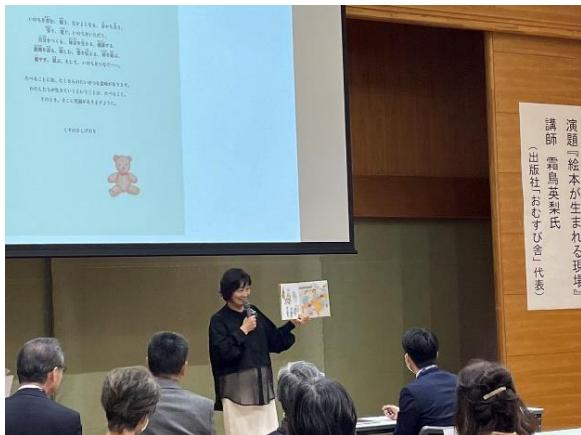
- ・発達段階ごとの取組推進
- ・読んで、話す取組の充実
- ・大人の役割創出
- ・家読の普及と推進

すべての機関は年度当初に提出した計画をもとにそれぞれ実践を展開し、年度末には自己評価をするなど、組織的・計画的に子どもの読書活動推進に

取り組みました。

(7) うちどく（家読）の推進

令和5年度は、新潟県で「おむすび舎」という絵本の出版社で代表を務める霜鳥英梨氏を招いてうちどく推進講演会を行いました。「絵本が生まれる現場」という演題で、食と絵本を結びつける取組について語られました。



◀うちどく推進講演会を図書館ホールで実施

また、「第8回 図書館を使った調べる学習コンクール」では、市内の小学校から64点の応募があり、入賞作品(13点、13人)を表彰するとともに、最優秀賞の2点を全国コンクールへ推薦しました。その2点とも佳作に入賞しました。

うちどく広め隊の活動では、小学校への派遣に加え、市内に新しく設置された松浦健康増進施設において、市民図書館の司書と地域で活動するボランティアグループが一緒になっておはなし会を実施しました。松浦健康増進施設には自動車図書館「ぶっくん」による団体貸出も実施しており、新たな読書のスポットとして展開するきっかけを作りました。



◀市内に新しく完成した「松浦健康増進施設」へ地元で活動する読み語りボランティアをうちどく広め隊として派遣

(8) 学校やコミュニティセンターへの支援

学校図書館が児童生徒の読書センター・学習センター・情報センターとして機能できるよう市教委訪問に同行し、学校からの求めに応じた助言指導や環境整備等の支援を行いました。全学校に対する団体貸出や朝の読み語りはもとより、図書館講座の出前、学校図書館事務職員の研修会、児童図書展示会等を行いました。

また、うちどくの拠点に位置づけているコミュニティセンターに対しても、それぞれの特色に応じた読書推進の支援や団体貸出を行い、子どもから高齢者まで、幅広い読書活動が展開されるよう支援を行いました。

なお、前掲の「図書館を使った調べる学習コンクール」に際しては、主体的に考える力を育成するため、児童生徒へのレファレンスサービスや学校図書館との連携による支援を行いました。

さらに、学校・家庭・地域が有機的に連携して、学力向上や不登校の児童生徒の対応を図るとともに、心身の調和のとれた子どもの発達を図ることを目的として、「地域教育研究事業」を実施しました。

3 第三者からのご意見

- ① コミュニティセンターも順次改築され、素晴らしい環境になってきました。今後さらに、学習機会の充実や情報の提供に努め、内容を充実させ「生涯学習社会」の実現を目指してほしい。
- ② 地域学校協働活動の推進は、学校、地域の発展に大きく貢献するものと考えます。推進員を中心に学校、地域が連携・協働し、それぞれの特性を生かした創意工夫した取り組みがなされることを期待します。
- ③ 市民図書館が図書館フレンズ等との協働のもとに、年々前進されていることに敬意を表します。
- ④ 自動車図書館「ぶっくん」での本の貸出や子どもへの出前おはなし会は、伊万里市の特色ある取り組みです。大切に続けて下さい。
- ⑤ 官民協働の「伊万里ミントの会」による「森羅万象講演会」や「イマリペディアン養成講座」は、市民の自主的な活動として魅力があります。
- ⑥ 「うちどく（家読）」や「図書館を使った調べる学習コンクール」への熱心な取り組み、また、学校やコミュニティセンターへの様々な支援など、その活動ぶりに感謝します。
- ⑦ 生涯学習については、市内各所で良く実践されているように感じています。子ども向けから高齢者まで多岐にわたり取り組まれているように思います。

特に「うちどく」の推進や読書推進活動には市内全域で取り組まれ、さらなる広がりに期待しています。

- ⑧ 開館から28周年を迎えた市民図書館が生涯学習の拠点として計画的な取組を行い、市民の知育、心育等の向上につながっていると思います。
- ⑨ 2台の自動車ぶっくんの市内巡回は、児童生徒や高齢者にとっても大変有意義だと思います。
- ⑩ うちどく推進事業で全国的に有名な、おむすび舎の霜鳥英梨氏の講演の実施等は、評価できる取組でした。

III 教育委員会点検・評価施策

施策3 青少年の健全育成の推進

1 施策の取組方針

学校、家庭、地域が連携して、子どもの生活習慣や自立心を培うほか、生活環境の変化に対応した心豊かでたくましい青少年の育成や地域づくりリーダーの養成を図ります。

また、青少年の健全な育成の環境づくりとして、青少年対策関係機関等と連携して、青少年の非行防止啓発活動を実施するほか、子どもや若者、保護者等からの悩みに対応する青少年相談室の充実を図ります。

2 主な取組実績

(1) 各種体験活動の実施及び青少年育成団体の支援

学校や地域、青少年育成団体と協働して、子どもたちの学びや体験活動、交流活動の機会を提供するためコミュニティセンターを核として「放課後子ども教室開催事業」を実施しました。また、市民が一丸となって次代を担う青少年の健全育成を図るために組織された「伊万里市青少年育成市民会議」などの青少年育成団体と協働して、野外宿泊体験事業や交流体験事業を実施しました。

① 放課後子ども教室

地域住民等の協力・参画を得ながら、文化・芸術の分野ではミニ門松づくりや茶道教室のほかチエス教室など、スポーツの分野では陸上教室やバスケットボール教室など、様々な学習や体験、交流の機会を提供する「放課後子ども教室」を開催しました。

子どもたちの社会性、自主性、創造性を育むとともに、地域社会全体の教育力の向上を図り、子どもたちが安心して過ごせる環境（居場所）づくりを推進することができました。

○実施教室数等（参加者は延べ人数）

伊万里地区 参加者 56人	・お菓子作り ・ミニ門松作り ・親子料理教室 ・クリスマスの小物作り
牧島地区 参加者 236人	・陸上教室 ・ミニ門松作り

大坪地区 参加者 261 人	・親子で手づくり教室　・チェス教室 ・留守家庭児童クラブ交流会　・親子料理教室
立花地区 参加者 290 人	・リズムダンス　・茶道教室　・鬼火たき ・節分行事
大川内町 参加者 97 人	・茶道教室
黒川町 参加者 234 人	・休日図書館
山代町 参加者 137 人	・バスケットボール教室　・料理教室 ・体験教室



② 伊万里市青少年育成市民会議の事業

例年実施している「伊万里サマーキャンプ」は台風接近のため沖縄での本研修は中止となりましたが、引き続き各町青少年育成町民会議や関係団体の取り組みに対する支援を行い、地域の青少年育成活動を促進することができました。

③ 伊万里市青少年団体連絡協議会の事業

「チャレンジ『Day』キャンプ」、「スタミナ焼肉オリエンテーリング」の2事業を実施しました。



(2) 青少年の非行防止啓発活動及び相談体制の充実

① 非行防止啓発活動

全国強調月間にあわせ、広報誌や市ホームページに掲載し啓発するとともに、定期巡回パトロールや地域環境点検等を実施し、青少年の健全育成に努めました。

② 青少年相談事業

青少年相談室を設置し、青少年や保護者等からの悩み事の相談に対応しました。相談者が気軽に来所または電話により相談できる体制・環境を整え、青少年センターの相談機能を充実させることができました。

○相談業務委託先：青少年なやみ相談つくしの会（教職経験者等7人）

○開設日時：月曜日から金曜日の9:00～17:00

（土・日・祝日、年末年始休日を除く）

○青少年相談室案内カードの配付

小学1年生から高校3年生までの全児童、生徒

過去5年の相談件数

年 度	R元	R2	R3	R4	R5
件 数	46	153	111	157	157



3 第三者からのご意見

- ① 地域住民等の協力・参画を得ながら、様々な学習や体験、交流の場を提供する「放課後子ども教室」は、地域に密着した大切な行事だと思います。地域社会の教育力の向上を図り、子供たちの居場所づくりのためにさらに取り組みが深まることを期待します。
- ② 複雑化する社会の中、悩みや不安を抱えている子どもたちや保護者が増えています。悩みごとを気軽に相談できる場所があることはとても重要です。青少年相談事業の充実をさらに期待するとともに、相談員の皆さんに感謝と敬意を表します。
- ③ 最近の子ども達を取り巻く環境はいろんな場面でネットの進化に伴い課題も増加しているようですが、子ども達に直面している学校でも課題は多いように感じています。
だからと言ってネット使いの禁止といった対処療法ではなく、今までとは違う視点で考えていく必要があるように思います。
- ④ 定期巡回パトロールや地域環境等を継続的に実施されていることは、青少年の非行防止に確かにつながっていると思います。
- ⑤ 青少年相談事業については、児童・生徒・保護者等の他、20代以上の市民の方々の相談もあり、広い受皿での相談対応と思います。
教育支援センターとの連携等も更にお願いします。
- ⑥ サマーキャンプについては、台風接近のために中止になりましたが、昨今の異常気象をふまえ、実施時期等の見直しも必要かと思います。

III 教育委員会点検・評価施策

施策4 子育て支援の充実

1 施策の取組方針

留守家庭児童クラブでは、就労等により保護者が昼間家庭にいない児童に、生活の場や適切な遊びを提供し、児童の健全育成に取り組むとともに、保護者の子育てと仕事の両立を支援しています。また、利用希望児童の増加に対応するため、施設を拡充し、受け入れ定員や配置する支援員を増員するなど、受け入れ体制の充実に努めています。

2 主な取組実績

(1) 留守家庭児童クラブ管理運営事業

就労等により、保護者が昼間家庭にいない児童を対象に、安全な生活の場や適切な遊びの場を提供することにより、児童の健全な育成と保護者の仕事と子育ての両立を支援しました。

また、支援体制の充実として、クラブを利用する児童の中に支援を要する児童が増加しているため、令和3年度から令和5年度まで毎年3名、合計9名の支援員を増員し、児童の受入れを行いました。

市内13小学校区に24の児童クラブを開設し、年間286日間の運営を行い、1,390人の児童の受入れと675人の児童の時間を延長して受入れを行うことにより、児童の健全な育成と子育て支援に貢献することができました。

支援を要する児童の増加に伴い、支援員を増員したことにより、児童の受け入れ体制の強化ができました。

・開所時間 小学校の授業がある日：授業終了後から午後7時まで

土曜日、長期休業日：午前8時から午後7時まで

※午後6時から延長利用、1日100円。

・休所日 日曜日、祝日、8月13日～8月15日、12月29日～1月3日

・利用料 月額3,500円（8月のみ5,000円）

長期休業期間のみ利用の場合、日額300円

※2人目以降、半額。 非課税世帯、半額。

【留守家庭児童クラブ利用者数】

児童クラブ名	利用児童	延長利用者	定員	児童クラブ名	利用児童	延長利用者	定員
伊万里第 1	88	52	70	大川内	55	35	45
伊万里第 2	91	31	50	黒川	35	9	50
伊万里第 3	56	31	50	波多津	60	24	80
牧 島	39	15	35	南波多	49	9	45
大坪第 1	62	33	55	松 浦	57	15	50
大坪第 2	41	25	40	二 里	105	75	85
大坪第 3	31	9	31	東山代第 1	151	64	100
大坪第 4	78	24	40	東山代第 2	35	11	34
立花第 1	82	57	70	若楠第 1	33	12	35
立花第 2	46	25	40	若楠第 2	18	12	34
立花第 3	73	35	35	山代西	15	10	25
立花第 4	45	36	40	合 計	1, 390	675	1, 179
立花第 5	45	26	40				

※利用児童は、1回でも登録があった児童をカウントしています。

(2) 東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備事業

東山代小学校内に開設している東山代第 1 児童クラブ及び東山代コミュニティセンターの和室を借用して受入れを行っている東山代第 2 児童クラブについて、一体的な新たな施設を整備することとし、複合施設の建設工事に着手しました。

◆東山代児童クラブ概要（予定）

- ・支援単位数 4 部屋
- ・定員 160 名（40 名 × 4 部屋）

(3) 東陵中校区小中一貫校等整備事業

東陵中学校、大川小学校、松浦小学校の統合が決定されたため、東陵中学校の改修にあわせ、松浦小学校内に開設している松浦児童クラブから移行する児童と現在児童クラブがない大川小学校校区の児童が利用するための新たな児童クラブの整備に着手しました。

◆東陵児童クラブ（仮称）概要【予定】

- ・支援単位数 2 部屋
- ・定員 80 名（42 名 × 1 部屋、38 名 × 1 部屋）

3 第三者からのご意見

- ① 児童の健全育成と保護者の仕事と子育ての両立を支援する「留守家庭児童クラブ」管理運営事業は、施設の拡充、支援員の増員、延長受け入れ、長期休業期間のみ利用の受け入れなど様々な配慮のもと運営されていることを評価します。
- ② 東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備事業、東陵中学校区小中一貫校等整備事業の中に児童クラブの整備がきちんと位置付けられていることを評価します。
- ③ 留守家庭児童クラブの充実は市内全域で取り組まれ、子育て支援のあり方が良く実施されているようです。
しかし少子化の波は確実に広がっています。
教育委員会だけの問題ではないのでしょうが、幼少期の母親への支援などまだまだ不足しているように感じています。
子どもを産む若い世代への支援を医療体制をも含め、子を産む事への意義を如何に伝えていくかが問われているように感じます。
- ④ 東山代小学校・コミュニティセンター等複合施設整備事業や東陵中学校区小中一貫校等整備事業が推進されていることは、保護者への子育てと仕事の両立の支援において大いに評価できると思います。
- ⑤ 支援を要する子どもたちの増加に伴い、支援員を増員されたことは、評価できますが、まだまだ少ないと思います。次年度以降も増員の計画をお願いします。

III 教育委員会点検・評価施策

施策5 文化芸術・スポーツの振興

1 施策の取組方針

市内の文化芸術団体との協働により「伊万里市美術展」や「市民音楽祭」を開催するとともに、市民の文化芸術活動に関する情報や優れた芸術鑑賞の機会を充実することにより、多くの市民の文化芸術活動への参加を促すほか、市内の文化芸術団体の自主活動を支援します。

また、スポーツは心身の健全な発達及び健康や体力の保持増進など、市民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むうえで不可欠なものとなっています。

このため、佐賀県との連携を図り、「スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくり」を目指し、市民だれもが、いつでも、どこでも生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できる環境づくりを推進します。

2 主な取組実績

(1) 市美術展開催事業

市民や市内クラブに所属している人等から創作意欲に溢れる作品を公募し、絵画、書、写真・工芸の部門別に「伊万里市美術展」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、今年度は、会場をコロナ以前の市民センター文化ギャラリーへと会場を移し、開催しました。

感染症による規制が緩和されたこともあり、出品者数・出品点数・観覧者においては、令和4年度の数を上回りました。

一般市民へ作品発表の場を提供するとともに、市民に美術鑑賞の機会を提供し、市民参加型の文化芸術の振興を図ることができました。

○主催：市美術展実行委員会（絵画2人、書5人、写真1人、工芸2人、計10人で組織）、市教育委員会

○会場：市民センター 文化ギャラリー

○部門ごとの開催期日、出品数

・前期（5/10～5/14）：絵画 出品数 56点

・中期（5/17～5/21）：書 出品数 246点（一般40点、小中学生206点）

・後期（5/24～5/28）：写真・工芸 出品数 写真63点・工芸53点

○出品者数：308人

○入場者数：延べ約1,023人

過去の部門別出品点数

部門	絵画	書（一般）	書（学生）	写真	工芸	計	出品者数
H30	57	65	251	65	42	480	377
R元	47	66	250	70	46	479	379
R3	52	49	196	45	41	383	314
R4	45	31	170	45	42	333	262

年度別入場者数

年度	H30	R元	R3	R4
人数	1,333	1,481	1,071	952

※R2 年度は中止

（2）市民音楽祭開催事業

市内を中心に活動する団体が、合唱、吹奏楽やバイオリン、箏、ハーモニカなど多彩な演奏や歌を披露する「市民音楽祭」を開催しました。

地域における芸術文化の継続や活動団体のモチベーションの向上につながりました。

○開催期日：12月3日（日）

○出演団体：20団体（器楽・重奏 11団体、歌・合唱 9団体）

○出演者数：278人

○参観者数：約230人

過去の出演団体・出演者数

	出演団体	出演者数
H30	20	280
R元	23	343
R3	13	154
R4	17	217



（3）ウォーキング大会開催事業

市民の健康づくりと自然豊かな伊万里を市内外にPRすることを目的に、平成18年度から毎年、伊万里ウォークを開催しています。

令和5年11月23日に「魅力あふれる夢のまち伊万里ウォーク2023」を開催したところ、市内外から過去最大となる854名の参加をいただき、市民が気軽に参加できる健康づくりの場を創出するとともに、市外の方に本市の魅力発信を行うことができました。

【コース別参加者数】

●伊万里湾岸・はちがめコース（約 20km）	195 名
●秘窓の里・鍋島コース（約 12km）	384 名
●古伊万里コース（約 6km）	275 名
計 854 名	

【地域別参加者数】

●佐賀県内	643 名
うち伊万里市内	(512 名)
うち伊万里市外	(131 名)
●福岡県	34 名
●長崎県	173 名
●その他	4 名
計 854 名	

（4）ハーフマラソン大会開催事業

スポーツの振興に加え、交流人口の拡大や観光情報の発信を目的として、伊万里ハーフマラソン大会を開催しました。

平成 27 年から開催し 10 回目の節目の大会となる 2024 大会は、参加定員規模をコロナ前に戻して開催したところ、全国各地から 2,898 人のエントリーがあり、県内外の参加者に対し、伊万里の魅力発信を図ることができました。

伊万里ハーフマラソン2024(IMARI HALF-MARATHON2024) エントリー集計

種目別エントリー数		【最終】									
種目 No.	種目・種別	2024	2023	2022 オンライン	2021 オンライン	2020	2019	2018	2017	2016	2015
1	ハーフ 男子 18~39 歳	697	459	107	219	945	914	849	922	726	595
2	男子 40~49 歳	685	490	193	343	850	795	708	734	554	465
3	男子 50~59 歳	619	478	186	281	657	623	520	496	395	314
4	男子 60 歳以上	361	261	60	106	331	313	276	256	175	119
5	女子 18~39 歳	145	111	32	50	274	257	215	250	221	135
6	女子 40~49 歳	161	108	65	123	223	214	193	191	154	111
7	女子 50~59 歳	167	107	60	90	168	134	112	110	65	54
8	女子 60 歳以上	63	43	27	32	57	50	46	29	18	19
9	セルフ男子18歳以上	-	-	307	393	-	-	-	-	-	-
10	セルフ女子18歳以上	-	-	269	323	-	-	-	-	-	-
小 計		2,898	2,057	1,306	1,960	3,505	3,300	2,919	2,988	2,308	1,812

(5) ニュースポーツ大会開催事業

市民が気軽にスポーツを楽しみ、心身の健康を維持する機会を創出するため、ニュースポーツ大会を開催するとともに、秋と春にはスポーツの楽しさに触れる機会を創出するため、年少児から小学生を対象とした伊万里っ子キッズスポーツフェスティバルを開催しました。また、貸出用備品であるスカットボールを新調しました。

スポーツの楽しさを味わいながら仲間意識を醸成し、健康を維持する生涯スポーツを推進することができました。

大会名	参加チーム数等	参加者数
第 26 回市民グラウンド・ゴルフ大会	67 チーム	392 人
第 17 回市民ソフトバレーボール大会	10 チーム	53 人
第 36 回市長杯争奪市民ゲートボール大会	13 チーム	79 人
伊万里スポーツデイ（第 12 回市民ペタンク大会）	13 チーム	46 人
（第 5 回市民アジャタ大会）	6 チーム	43 人
（第 29 回伊万里っ子・キッズスポーツフェスティバル）	ラグビー、野球 ホッケー	45 人
伊万里スプリングスポートデイ （第 30 回伊万里っ子・キッズスポーツフェスティバル）	野球、ホッケー ビーチバレーボール フライングディスク	58 人



(6) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会推進事業

令和 6 年度に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、SAGA2024 伊万里市実行委員会において、伊万里市開催競技別リハーサル大会を 4 競技開催したほか、鹿児島県で開催された特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」・特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆ

る感動かごしま大会」の競技会場を視察するとともに、後催市町向けの開催事業概要説明会に出席しました。

また、広報啓発活動として、各種啓発グッズ（ネックストラップやクリアファイルなど）を作製し、市、関係機関、関係団体が開催するイベント等で配布するとともに、市街地や市内公共施設等を中心にのぼり旗設置やラッピング装飾を進めたほか、県との共同プロジェクト「学校訪問 2024」を実施して、市内の中学校 1 校及び高校 3 校の生徒（延べ 854 人）に対して、講話を通じた大会 PR に努めました。



▲リハーサル大会（伊万里ホッケーフィールド）



▲伊万里市駅ビル装飾

（7）スポーツ施設の整備充実及び環境づくり

スポーツの振興を図るうえで、その基盤となるスポーツ施設の充実は必要不可欠であることから、既存施設の適正な維持管理に努めるとともに、地域運動広場の整備を支援するなど、安全かつ快適にスポーツに親しめる環境づくりに取り組みました。

主に令和 6 年度に開催される SAGA2024 軟式野球競技、ホッケー競技、フライングディスク競技の会場となる国見台体育施設をはじめ、市内体育施設の老朽化に伴う修繕等を行うとともに、適切な維持管理を行いました。

また、老朽化した国見台プールについて、早急に安全性を確保するため、解体工事を行うとともに、国見台体育施設の課題の一つである駐車場不足を解消するため、当面、プール跡地を約 240 台分の駐車スペースとして確保しました。

さらに、長年の課題であった市散弾銃射撃場については、検討委員会で策定されたアクションプランに基づき水質調査を実施するとともに、検討委員会において決定された土壤撤去方法や処分方法に基づき、高濃度汚染土壤の撤去工事を行いました。

なお、天候などの影響により工事の進捗が遅れたため、工事期間を延長（R5.9.5～R6.5.31）して対応しました。



▲国見台プール跡地に整備した駐車場



▲散弾銃射撃場土壤撤去工事

3 第三者からのご意見

- ① 「伊万里市美術展」や「市民音楽祭」の開催は、市民の文化芸術活動への関心を高めるよい機会となっています。さらなる充実を期待します。なお、ある高齢者から「市美展に作品を出品しようと思っても、遠方で作品の運搬ができない。そういう高齢者への配慮ができないのでしょうか。」との声をお聞きした。そのような方への配慮もご検討ください。
- ② 市民だれもが、いつでも、どこでも生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できる環境づくりに努めておられることに感謝します。
- ③ 「伊万里ウォーク」や「ハーフマラソン大会」は、健康づくり、スポーツの振興、本市の魅力発信、交流人口の拡大などに大きな役割を果たしています。周到な計画のもとに取り組まれている係の皆様に敬意を表します。
- ④ ニュースポーツ大会は楽しさを味わいながら仲間意識を醸成し、健康を維持する大変良い機会となっています。また、伊万里っ子キッズスポーツフェスティバルは子どもたちにスポーツの楽しさを感じさせるすばらしい取り組みだと思います。
- ⑤ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けてリハーサル大会の開催や広報啓発活動への取り組みに感謝します。
- ⑥ スポーツ施設の整備充実については、適切な維持管理に努力いただいている。国見台プールの解体工事後、跡地を駐車スペースとして利用できることは、大会等の開催には大変有効です。
- ⑦ 市散弾銃射撃場については、高濃度汚染土壤の撤去工事等が計画的に行われており、感謝します。

- ⑧ 文化芸術は以前より多く取り組んでこられていますが、美術展の出品数の減少や音楽祭の出演者の減少が見られるようです。
人口減の影響もわずかにあるかも知れませんが、これまで支援していただいたように市民の皆さん生涯にわたり健康であるため、これからもスポーツに文化芸術にご支援をお願いいたします。
- ⑨ 市民音楽祭は、感染対策を実施し開催されましたが、市民が主役のすばらしい音楽祭だと思います。
- ⑩ 伊万里ハーフマラソンも10回目となり、市と陸上競技協会、その他団体等での大会運営もすばらしく、リピーターの参加者も多く、大変魅力的な大会だと思います。
- ⑪ 国見台体育施設の修繕等をはじめ、新しく整備された駐車場等は、大変評価できます。

III 教育委員会点検・評価施策

施策6 人権教育と啓発の推進

1 施策の取組方針

すべての人の人権が尊重される「人権のまち伊万里」の実現をめざして、同和問題をはじめとする様々な人権問題の早期解決を図るため、「伊万里市部落差別解消の推進及び人権擁護に関する条例」及び「伊万里市人権教育・啓発に関する基本方針」に基づき、関係機関等との協働で地域に密着した研修講座を開催するなど、学習の場づくりと市民意識の高揚に努めるとともに、地域における指導者の育成を図ります。

また、コロナ禍において構築した、市民の生活様式に即した新たな手法の住民啓発の展開に努めます。

併せて、インターネットを悪用した人権侵害行為から市民を守るため、インターネットモニタリングに取り組みます。

2 主な取組実績

(1) 社会人権・同和教育団体支援事業

同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の早期解決を図るため、「市人権・同和教育推進協議会」と協働し、地域に密着した教育・啓発を実施しました。

また、各種研修講座を開催し、市民の人権意識の向上に努めることができました。特に、新たなスタイルの住民啓発として、職員出演・制作によるオリジナル人権啓発動画「じんけんかわらばん」を活用したことで、これまでの課題であった若い世代への啓発を促進することができました。

事業名	実施回数	参加者数
指導者育成講座	6	169
地区巡回講座	38	815
PTA等研修講座	21	987
企業・事業所研修講座	14	990
住民啓発事業	85	4,356
計	164	7,317



▲地区巡回講座



▲ P T A研修

(2) 同和教育集会所管理運営事業

同和問題解決の拠点施設である同和教育集会所の管理運営を行いました。人権啓発交流事業「粘土教室」「料理教室」を実施するなど、市民への同和教育の推進・向上に努めることができました。

	施設利用者数 (人)
令和元年度	784
令和 2 年度	636
令和 3 年度	635
令和 4 年度	647
令和 5 年度	710



▲粘土教室



▲同和問題研修



▲料理教室

3 第三者からのご意見

- ① 市民の人権意識の向上を目指し、各種研修講座を開催されていることに敬意を表します。特に、地区巡回講座、P T A等研修講座、企業・事業所研修講座は大切で、今後とも継続・充実を期待します。
- ② 職員出演・制作によるオリジナル人権啓発動画「じんけんかわらばん」の活用は、職員の熱意の表れで、きっとその思いが市民に伝わることでしょう。
- ③ 人権教育推進のためには、まず、行政職員が意識・認識を高め、感性を磨き、率先して行動することが求められます。日常の姿勢で市民をリードしてほしいと思います。
- ④ 学校や企業、地域で人権教育に取り組んで頂いていることは、大変良い取り組みであると思います。
ただこれからも人権を取り巻く環境はますます複雑化してきて、課題はまだまだあるように感じています。多岐にわたる人権教育の啓発を引き続きお願いしたいと思います。
- ⑤ インターネットモニタリングは、インターネットを悪用した人権侵害行為に対しては、有用な取組だと思います。
- ⑥ 「じんけんかわらばん」は、職員出演・制作の動画ですが、内容もわかりやすく、若い世代にも受け入れやすい取組だと思います。

III 教育委員会点検・評価施策

施策7 文化財の保護

1 施策の取組方針

国指定史跡大川内鍋島窯跡など本市が誇る焼き物に関する貴重な遺跡をはじめ、国内有数の黒曜石原産地である腰岳遺跡群や市内に所在する文化遺産の保護顕彰を図るとともに、国指定天然記念物であるカブトガニ繁殖地などの地域固有の動植物や、県指定重要無形民俗文化財の府招浮立などの伝統芸能を継承する活動を支援し、これら文化財の保存と活用に努めます。

また、伊万里市歴史民俗資料館、伊万里市陶器商家資料館、伊万里・鍋島ギャラリーを郷土の歴史や伝統文化、自然などの情報発信拠点として充実を図ります。

2 主な取組実績

(1) 史跡大川内鍋島窯跡学術調査事業

大川内山にある史跡大川内鍋島窯跡の将来的な保存・整備・活用を図り、地域活性化に資するため、平成26年度から国県の補助金を活用し遺構の範囲や性格、歴史的変遷を確認する発掘調査を実施し、発掘調査対象として、史跡内にある日峯社下窯跡について、窯跡及び物原の基礎データを確認する調査を行っています。令和5年度は、令和2年から令和4年に整理作業を行った成果をふまえ、3次～8次調査分の報告書を作成しました。

日峯社下窯跡の発掘調査では、2か所にトレーナーを設定し掘り下げを行い、調査の結果、第7室の空間地の存在を確認しました。これらの成果は今後の史跡整備の基礎資料として活用します。

また、令和6年3月22日に調査指導委員会議を開催し、今回の調査結果をふまえて指導委員より指導を受け、令和6年度以降の調査内容について、詳細な検討を加えることができました。指導委員からは一般製品の種別変化について、土層による違いに着目することで、層位での意匠変化の傾向が確認できると考えられることや、同一層の意匠の差は、複数の陶工を表しているのか、時代差によるものなのか検討する必要があるなどの指導を受けました。

さらに、発掘調査の現地を視察し、今回のトレーナーを含め西側の空間地と物原（失敗品の廃棄場所）の位置関係について明確にするべきなどの指導を受けました。



▲指導委員会議の様子

(2) 腰岳遺跡群学術調査事業

日本有数の黒曜石原産地である腰岳の文化財的な保護を目的とした事業で、令和5年度は昨年度に引き続き、腰岳遺跡群に関する資料収集を行いました。また、昨年度の調査指導会議において、過去に実施した調査の出土遺物の再整理を優先して行うよう指導があったため、整理作業を実施しました。

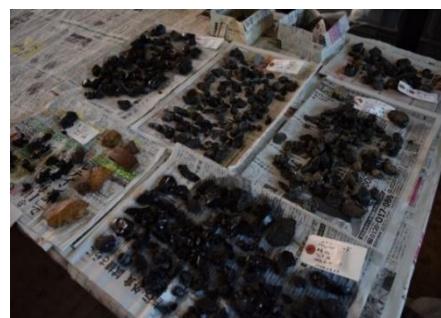
資料収集は、腰岳黒曜石に関する岩石学・地質学的調査報告書などの腰岳関連資料や、研究グループによる腰岳黒曜石の調査刊行物などを収集しました。再整理作業では、昭和59・60年に実施した発掘調査での出土遺物を対象とし、主に器種ごとの分類作業を行いました。

これらの成果報告と指導助言を受けるため、令和6年3月18日・19日の2日間、学識経験者5名を調査指導委員、文化庁調査官をオブザーバーとして、第2回の調査指導会議を開催しました。日程調整がつかなかった調査指導委員2名のうち、長崎大学教育学部准教授 隅田祥光氏については、令和6年3月26・27日に、個別での調査指導を受けました。事業の成果報告を行い、今後の調査方法の確認を行いました。

調査指導会議では、収集した資料については最終的な総括報告書に反映できる形で整理していくよう指導を受けました。また、再整理作業と岩石学的調査についても指導助言を受け、今後の事業内容の充実化を図ることができました。岩石学的調査については、長崎大学側とも連携して進めていく予定です。



▲黒曜石洗浄作業



▲洗浄後の乾燥



▲第2回調査指導会議



▲再整理（分類作業）状況観察

（3）カブトガニ保護促進事業

間近でカブトガニの生態を観察し保存活動への理解を深めるため、また、地域のまちづくり活動の拠点とするため、地元保護団体である『牧島のカブトガニとホタルを育てる会』が運営している「伊万里湾カブトガニの館」の運営に対して支援を行いました。

そのほかに、『佐賀県立伊万里高等学校理化・生物部』へのカブトガニ研究調査業務委託や『伊万里市カブトガニを守る会』に対し支援を行いました。



◀伊万里湾カブトガニの館

令和5年度の伊万里湾カブトガニの館の入館者数は3,709名でした。（コロナ禍の令和2年度を除く令和元年度から令和4年度（3年間）までの平均入館者数3,956名）

伊万里市カブトガニを守る会を中心に、カブトガニの産卵地清掃を行い、ボランティアの参加を含め、延べ62名の参加がありました。今回の清掃では、2トントラック2台分のゴミを回収することができました。

「カブトガニの産卵を観る会」を開催し、約80名の参加がありました。当日は、伊万里高校理化・生物部によるカブトガニの解説が行われ、参加の方々は興味深げに耳を傾けていました。また、観る会と同日に、カブトガニ増殖のためにカブトガニの館や伊万里高校、牧島小学校で約1年間飼育した幼生約1,390匹を放流しました。

カブトガニの産卵つがい数について、令和3年と令和4年は、平成28年～令和2年（5年間）の平均である522つがいの3倍近くの約1,500つがいを記録していましたが、令和5年は、471つがいを記録し、平均並みのつがい数となりました。

幼生の飼育については、令和5年12月に牧島小学校、二里小学校、青嶺中学校の3校へ幼生の引き渡しを行い、飼育しています。



▲産卵を見る会の様子



▲幼生放流の様子

（4）歴史民俗資料館管理運営事業

歴史民俗資料館では、伊万里市の歴史や文化、自然を紹介する資料展示を行うとともに、出前講座や見学講座に積極的に取り組みました。

また、これまで制限してきた展示資料の撮影を許可することで、来館者のニーズに応えました。令和5年度の入館者数は1,569人を数え、伊万里市民を中心に郷土に対する理解を深めることができました。



▲古代コーナー



▲見学講座の様子

(5) 陶器商家資料館管理運営事業

陶器商家資料館では、市重要文化財の旧犬塚家住宅である建物の公開と併せて「古伊万里」などの古陶磁器や商家に関する文書や調度品などの展示を行いました。令和5年度の入館者数は2,433人を数え、市内外からの来訪者へ、本市のやきもの文化や商人文化に関する理解を深めるとともに、市街地観光に貢献しました。

また、2階北側窓を修理し、開閉を可能にすることで、かつて焼き物が積み出された伊万里津を偲ぶ景観を来館者に提供しました。



▲陶器商家資料館

(6) 鍋島ギャラリー管理運営事業

伊万里・鍋島ギャラリーでは、市内外からの来館者へ、鍋島焼や古伊万里の歴史、伝統文化に対する理解を深めてもらうとともに観光にも活用するため、所蔵する優品の常設企画展を開催しました。また、これまで制限してきた展示資料の撮影を許可するとともに、オリジナルポストカードの販売を開始するなど、来館者のニーズに応えました。

「綺麗なうつわ 色鍋島と金襤手古伊万里展」

2月4日～7月30日

「鍋島・古伊万里展」

8月8日～10月1日

「鍋島・古伊万里展 青磁・染付・色絵の世界」

10月7日～4月14日



▲伊万里・鍋島ギャラリー

このほかに、大川内山の秋の窯元市に協賛して、伊万里・有田焼伝統産業会館においても本市が所蔵する古陶磁器を広く一般に展示公開しました。

平成 15 年開館から 20 年を経て、4 月 21 日に来館者が通算 5 万人に到達しました。

令和 5 年度の来館者数も 5,996 人を数え、開館以来最多を更新するなど、市内外からの来館者へ鍋島焼や古伊万里の歴史、伝統文化に対する理解を深めてもらうとともに、市街地観光に貢献しました。



▲無料で配布している「しおり」



▲販売中のポストカード(全 5 種類)

3 第三者からのご意見

- ① 史跡大川内鍋島窯跡学術調査や腰岳遺跡群学術調査が計画的に着実に進められていることに敬意を表します。地域活性化に資するものと期待します。
- ② カブトガニ保護促進事業が行政、地域、学校、関係団体の協力のもとに継続・発展されていることは伊万里市の誇りです。特に、高校生、中学生、小学生の未来を担う子供たちの協力は素晴らしいことです。
- ③ 歴史民俗資料館での資料展示、出前講座、見学講座、撮影許可、また、陶器商家資料館での文書や調度品などの展示、2階北側窓の修理、そして、鍋島ギャラリーでの常設企画展、撮影許可、オリジナルポストカードの販売等様々な創意工夫のもと、市内外の来訪者へ伊万里の歴史、伝統文化、自然等について理解を深めてもらうとともに観光にも貢献していることを大きく評価します。
- ④ 伊万里市の文化財を考える時に、施設の充実を図っていかれる事を願っています。
歴史民俗資料館の拡充を願うばかりですが、収蔵する文化財も沢山ある中で価値ある歴史的な遺産を市民や市外の方々に広く伝えて頂きたいです。
- ⑤ カブトガニの幼生飼育が伊万里高校・牧島小学校をはじめ、長年に渡つて行われ、放流されていることに感謝します。
- ⑥ 伊万里にはたくさんの文化財がありますが、その保存、整備、活用を計画的に推進されていることは、すばらしいと思います。

